

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		シニアクラブ活動助成事業		担当課 介護福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間 年度～
	施策	高齢者福祉の推進		種別 法定＋任意
	基本事業	生きがいづくりの機会と社会参加の促進		市民協働 共催
予算科目コード		01-030103-02 補助	根拠法令・条例等	老人福祉法，老人クラブ活動等事業実施要綱，老人クラブ等事業運営要綱，守谷市シニアクラブ助成事業補助金交付要綱

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
昭和37年老人福祉法制定に伴い創設された事業である。市民が高齢期で過ごす時間に生きがいをもち安心して楽しく充実した生活を送ることが求められている。シニアクラブは地域を基盤とする高齢者の自主的な組織であり、国の老人クラブ活動等事業実施要綱に基づき単位シニアクラブ、市シニアクラブ連合会、県老連と連携を図るとともにシニアクラブ等に対する支援に努め、必要に応じて助言指導を行うものとする。	市シニアクラブ連合会の主な事業としては、元気わくわくスポーツ大会、シニアスポーツ大会、研修会等を企画立案し実施する。市の主な役割は、市シニアクラブ連合会及び単位シニアクラブへの補助金支給・各種スポーツ大会・役員会・会長会議・研修会・その他高齢者が生きがいが健康づくり事業などの企画等を支援する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市シニアクラブ連合会及び単位シニアクラブの活動をより一層活性化し、高齢者の生きがいが健康づくりを推進する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもち高齢者を増やす。地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
①シニアクラブの運営については、会員の意識変化により、行政依存度は下がっているが、行政主導となっている連合会との共催行事の開催などにおいても、会員主導による運営に移行していくことが必要である。 ②30人以上の適正単位クラブが少なく、適正クラブを対象とする県からの助成金が少ない。また、会員増強への取組が活発でない単位クラブがある。	シニアスポーツ大会 8月 連合会役員会開催。シニアスポーツ大会の素案作成。 9月 単位会長会議により競技種目、単位クラブ代表の役割について打ち合わせ。 10月 前日場所確認 当日 集合については、単位クラブが行い、整列については、民生委員・シルバーリハビリ体操指導士と一緒に各クラブの代表者が行う。団体競技については、各クラブで集合整列を実施。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	文化交流会 5月 単位クラブ代表により文化交流会実行委員会発足 5月～8月 文化交流会打ち合わせ 9月 文化交流会（健康麻雀大会）開催 10月 反省会及び今後の打ち合わせ 随時 高齢消費者被害防止友愛活動、活動内容の充実支援などで会員増に繋げていく。
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	会員増加見込分の単位クラブ助成金の増となる。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
シニアクラブ会員数の増加に伴い、各種イベントへの参加者数の増加が見込まれる。また、高齢消費者被害防止キャンペーン等の新たな事を展開することにより、シニアクラブの活性化を図っていく。さらに、今後はスポーツ大会運営などに会員が自主的に携わっていくことを図っていく。	平成29年度は見守りサポーターの拡充を図り、地域において高齢消費者の被害防止のため友愛訪問を通して情報を伝達している。また、街頭キャンペーンを実施し、会員以外の方に対しても消費者被害防止の周知を行った。 また、スポーツ大会の運営については、集重整列を単位シニアクラブの会員代表が行い、スムーズな大会運営に努めた。 さらに、平成29年度から、シニアクラブ会員有志により、健康麻雀大会の実行委員会を立ち上げ、9月（48名参加）と3月に健康麻雀大会（92名参加）を開催した。 平成29年度は、会員増強及びシニアクラブの活動について全国表彰

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
総会・役員会参加者数（人）	35.00	85.00	78.00	75.00	75.00
スポーツ大会参加者数（人）	614.00	589.00	674.00	730.00	730.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	スポーツ大会参加者の増加及び新たな事業である文化交流会健康麻雀大会の開催など事業が拡大している。また、会員自らが企画運営を行い事業を展開している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
■ 拡大 □ 縮小 □ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	益々高齢化が進み、生きがいを見出すためにシニアクラブ活動の重要性が増していく。シニアクラブの幅広い事業展開への支援を行い、会員の増強と地域における仲間づくりの推進を図る必要がある。また、リーダー育成への支援を強化していく必要がある。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	1,868	2,101	2,478	2,780	2,780
	国・県支出金	0	322	454	873	873
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	2,024	1,856	1,856
	一般財源	1,868	1,779	0	51	51
正職員人工数（時間数）		0.00	873.00	560.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	3,579	2,296	0	0
トータルコスト		1,868	5,680	4,774	2,780	2,780

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		敬老祝金支給事業		担当課	介護福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間	昭和43年度～
	施策	高齢者福祉の推進		種別	任意の事務
	基本事業	生きがいつくりの機会と社会参加の促進		市民協働	
予算科目コード		01-030103-06 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
老人福祉法第5条の規定において、老人週間（9月15日～21日）において、敬老意識の高揚と高齢福祉に対する理解を促すことが推奨されている。	高齢者に心から敬意を表し長寿をたたえるため、人生の節目にあたる年齢時に祝金を支給する。 （対象年齢・金額） 88・99歳：5,000円 100歳以上：10,000円
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
高齢の節目を迎えた方々に、長寿の喜びと今後も健康でおられることを感じていただく。	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。 地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
現在，祝金を民生委員から手渡しで支給している。 現金管理や受領書へ印をいただく扱いには，手間とリスクがある。	上半期　口座振込による支給方法等の検討と民生委員からの意見聴取
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
口座振込等の支給方法を検討する必要がある。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■ 増加 □ 維持 □ 削減	対象高齢者の増加のため。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
平均寿命が伸びを示していることから、支給対象年齢の見直しを行い、77歳の方への支給を廃止した。（平成28年度）	民生委員の協力により、88歳、99歳、100歳以上の方に祝金支給を行った。 88歳：181人 99歳：12人 100歳：4人 101歳以上：15人 合計：212人

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
支給人数（人）	549.00	204.00	213.00	274.00	274.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	高齢者に敬意を表し、長寿をたたえるために人生の節目に当たる年齢時の祝金の支給である。平均寿命が伸びていることから支給対象者の増加に伴い、支給総額の増加が見込まれる。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	対象者への支給方法を現在は、民生委員へ依頼して手渡しにより行っているが、今後、支給方法の見直しの検討が必要である。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	2,895	1,120	1,161	1,545	1,545
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	1,161	1,545	1,545
	一般財源	2,895	1,120	0	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	161.00	104.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	660	426	0	0
トータルコスト		2,895	1,780	1,587	1,545	1,545

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		高年齢者就業機会確保事業	担当課	介護福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち	計画期間	平成16年度～
	施策	高齢者福祉の推進	種別	任意の事務
	基本事業	生きがいづくりの機会と社会参加の促進	市民協働	補助事業
予算科目コード		01-030103-08 補助	根拠法令・条例等	高年齢者等の雇用の安定等に関する法律 守谷市高年齢者就業機会確保事業費等補助金交付要綱

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
高年齢者等の雇用の安定等に関する法律において、「国や地方公共団体は、実情に応じて必要な援助、雇用の機会や就業の機会の確保等を図るために必要な施策を推進するように努めなければならない。」と定められている。	シルバー人材センターの事業運営に要する一部費用を補助金として交付する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
シルバー人材センターは、60歳以上の高齢者の労働能力や技能を活用し、地域社会に密着した短期的な就業の機会を提供している。 シルバー人材センター事業の円滑な推進により、高年齢者の健康で生きがいのある生活の実現と、地域社会への参加を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。 地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
シルバー人材センターの健全運営と会員の就業機会確保のために，センターの就業先拡大やサービス拡充が課題となっている。	平成29年度～平成30年度 総合事業の検討に当たり，業務に携わるセンター会員を対象に，介護保険制度や高齢者の現状についての基礎知識を習得する機会を設定するなどして，センター事務局と連携して総合事業の事業者としての活動の具体化を目指す。 随時 事務局との定期的な意見交換の場を設け，センターの事業状況把握と，運営への助言指導に努めていく。
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
センター事務局と連携してサービス拡充を図る。なお，サービス拡充については，高齢者の増加により，住み慣れた地域での自立した生活が課題であり，センターを活用した介護予防・日常生活支援総合事業の展開を検討していく。そのために高齢者が求める生活支援サービス内容の把握も行っていく。 さらにセンター事業のPRを積極的に行うとともに，センターに対し，健全運営やサービス拡充についての助言指導を行っていく。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	センターの現在の運営状況から，目的達成のためには維持が妥当である。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
自立した健全な運営を継続するよう指導する。	対応できる事業は限られているが、利用される方の要望に出来る限り対応に努めるよう指導した。 また、利用者には、サービス利用に当たり丁寧な説明を心がけるよう指導した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
就業延人数（請負契約）（人）	42,924.00	39,290.00	39,282.00	39,282.00	39,282.00
就業実人数（人）	355.00	325.00	327.00	327.00	327.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	事業の円滑な推進により、働く意欲がある高齢者の生きがいの充実と社会参加を図ることが出来る。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	自立した健全な運営を継続するよう指導する。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	3,100	3,100	3,100	3,100	3,100
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	3,100	3,100	3,100
	一般財源	3,100	3,100	0	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	14.00	15.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	57	62	0	0
トータルコスト		3,100	3,157	3,162	3,100	3,100

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		いきいきプラザげんき館施設維持管理事業		担当課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間
	施策	高齢者福祉の推進		種別
	基本事業	生きがいつくりの機会と社会参加の促進		市民協働
予算科目コード		01-030103-10 単独	根拠法令・条例等	守谷市いきいきプラザ・げんき館の設置及び管理に関する条例

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
高齢者の生きがいつくりの機会と社会参加促進のための介護予防施設の拠点となる「いきいきプラザ・げんき館」を設置した。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
適切な施設の維持管理を行い，利用者に安全と快適な環境を提供する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味，スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。 地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
施設老朽化に伴う修繕箇所が増加している。また，備品等も老朽化に伴い故障等が生じてきている。	随時及び定期的 社会福祉協議会からの施設状況聴取 必要な修繕等について財政計画見直し及び予算計上
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
げんき館を運営する社会福祉協議会との連絡を密にして，施設状況は常に把握し，必要性や優先度を考慮して，計画的に必要最小限の修繕・改修を行っていく。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	本年度予定していたエレベーター改修工事が完了したため次年度は減少するが，今後の事業コストは維持していく方向である。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の実績（評価、課題への対応）
経年劣化に伴いエレベーターの改修工事が必要。 数年後は、老朽化による外壁の塗装、水回りなどの修繕や空調設備等の点検の必要性があるため、計画的な修繕等を進めていく。	平成29年度は、エレベーターのロープ交換及びカゴ速度検知器の交換を実施した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
施設の不具合での事故発生件数（件）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	効率的で適切な施設維持管理を継続していく。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☒ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	老朽化による外壁の塗装，水回りなどの修繕及び空調設備等の点検を計画的に進める。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	2,393	2,253	3,061	2,599	2,599
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	2,951	2,599	2,599
	一般財源	2,393	2,253	110	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	17.00	29.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	70	119	0	0
トータルコスト		2,393	2,323	3,180	2,599	2,599

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		出前サロン活動支援事業	担当課	介護福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち	計画期間	年度～
	施策	高齢者福祉の推進	種別	任意の事務
	基本事業	生きがいづくりの機会と社会参加の促進	市民協働	事業協力
予算科目コード	01-030103-13 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 地区公民館・集会所・自治会館・学校の余裕教室などを利用して、運営ボランティアにより、お茶飲み・音楽・体操・趣味などの活動を行い、地域社会での高齢者同士のつながりを深める。サロンの開館時は自由に参加できる。開催数：毎週1回～月2回程度 開設時間：原則午前10時～午後3時（但し、サロンによって異なる） 費用：原則無料（但し、市施設以外の施設使用料、材料費等の自己負担有）
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
視察研修の費用対効果	5月 サロン運営ボランティア会議にて、視察研修の成果向上と経費節減（備品・消耗品についても含む）について協議 6月 実施方法決定 7月 各サロンへの周知 10～11月 視察研修
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
複数サロン合同による視察研修を実施し、サロン同士の交流とバス使用台数削減を促進する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	新設サロンのための備品の購入費用等は増加となるが、既設サロンからの備品・消耗品の支給要望内容を精査しコスト削減をしていく。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の実績（評価、課題への対応）
リーダー研修や研修会を行い人材育成を図り、質の高い継続したサロンづくりが必要。	5カ所のサロンが新たに開設された。 サロンは運営ボランティアにより自主運営されているため「出前サロン」という名称から出前を除き「サロン」に変更した。また、視察研修においては平成28年度は1サロンの参加人数の上限を定めたところ、利用者数の多いサロンは行けない方が多かったため、実施方法を見直し、40人以上の利用者がいるサロンについては、実施計画及び予約等を自主的に行える場合には、単独でバス1台貸切で実施できるように変更した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
参加人数（人）	781.00	1,113.00	1,255.00	1,300.00	1,400.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
■向上 □横ばい □低下	サロンが増設されたことに伴い、さらに多くの高齢者のための歩いて行ける仲間づくりの場が増え、生きがいや介護予防につながっている。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□拡大 □縮小 ■維持	□改善・効率化 □統合 □廃止・終了	健康麻雀や将棋を実施するサロンが増えており、使用備品の整備検討をしていく必要がある。また、リーダー研修会を行うなど人材育成に努め、質の高い継続したサロン運営を図る必要がある。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	995	879	1,075	1,765	1,765
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	1,075	1,765	1,765
	一般財源	995	879	0	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	512.00	179.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	2,099	734	0	0
トータルコスト		995	2,978	1,809	1,765	1,765

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		地区敬老行事助成事業	担当課	介護福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち	計画期間	平成29年度～
	施策	高齢者福祉の推進	種別	任意の事務
	基本事業	生きがいづくりの機会と社会参加の促進	市民協働	補助事業
予算科目コード		01-030103-20 単独	根拠法令・条例等	守谷市地区敬老行事助成金交付要綱

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
老人福祉法第5条で、「老人週間（9/15～9/21）において老人の団体その他の者によってその趣旨にふさわしい行事が実施されるよう奨励しなければならない」と定められている。 長年にわたり社会に貢献されてきたことに敬意を表すために、市主催で高齢者を一堂に集めて敬老会を実施してきたが、近年は敬老の意図は伝わっているが費用や出席率の面から事業の見直しが求められていた。	地域の方々により地域の実情に応じた自主的な催しや地元のイベント等との共催により、高齢者を敬い、地域とのつながりになる事業について、助成金を交付する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
高齢者を敬い、高齢者と地域とのつながりづくりや世代間交流による絆づくりを形成する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。 地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
平成29年度は市内16団体18会場での敬老行事助成申請があった。敬老と、高齢者と地域住民・異世代との繋がりがづくりのために、各地域で特色ある行事が展開された。 ①運用の課題 実施主体、助成限度、助成要件（行事内容、助成経費、高齢者参加率）実施主体での行事参加者の把握・開催のための労力負担・開催ノウハウ ②その他の課題 実施のない地域での開催、市主体の開催がないことへの不満	平成29年 12月 事業見直し 平成30年 2月～3月 実施団体等に見直し後の事業内容提示、広報掲載 平成30年 ～7月 事業申請（随時広報）
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
①実施団体への事業に対するアンケートの実施を行い、次年度以降の事業改善を図る。 ②各地域の実施例を提示しながら、未実施地域への実施に向けた支援を行う。	

次年度のコストの方向性（→その理由）

■増加 □維持 □削減	未実施地域があり、市内全域実施を想定した場合には、本年度実績よりコスト増が見込まれる。
----------------------------	--

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
各地区において地域福祉活動計画実行委員会や自治会等の主催により，敬老者を敬い，敬老者と地域の方のつながりや異世代交流をつくることを目的とした敬老行事を開催する。	平成２９年４月　地区敬老行事助成金交付要綱制定 7月～１２月にかけて１６団体が助成金交付申請し，うち１４団体による１６会場での敬老行事が開催された。（２団体は荒天候により中止。） 全体に参加人数　　　　　　２，４８９人 ７５歳以上の参加人数　　　　８３６人 総事業費　３，１５９，７９４円 助成金　　２，６１９，９５９円 地域住民の企画・運営による地区敬老行事が各地区で開催された。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
敬老行事開催団体数	0.00	0.00	18.00	20.00	20.00
75歳以上の参加者数	0.00	0.00	836.00	1,100.00	1,200.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	身近な地域での開催となったことにより、敬老行事の参加者が増加した。 市民の自主運営により地域の特色を生かした敬老行事が開催された。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
■ 拡大 □ 縮小 □ 維持 □ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	実施していない地域に実施に向けた働きかけ・支援を行う。 助成金は、前年度の実績に基づき、地区ごとに上限額（予算枠）を設定する。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	0	0	2,620	4,000	4,000
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	2,620	4,000	4,000
	一般財源	0	0	0	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	600.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	2,460	0	0
トータルコスト		0	0	5,080	4,000	4,000